

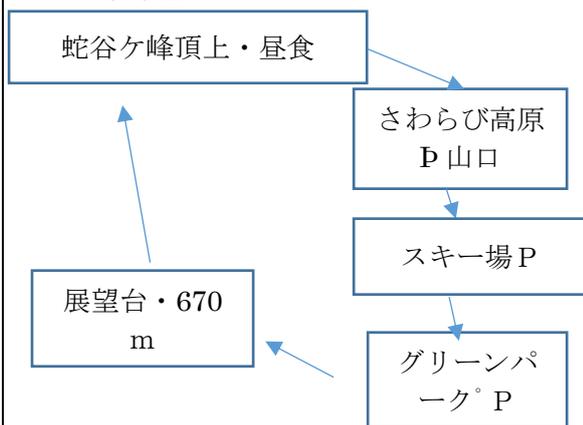
3月8日

蛇谷ヶ峰

小川 弘二

山名	老人達の雪遊び-2 「蛇谷ヶ峰」滋賀県朽木	山行名	個人山行
ルート	京田辺→グリーンパーク P→登山口→展望台・670m→蛇谷ヶ峰頂上→さわらび高原登山口→スキー場P→グリーンパーク P→京田辺		
山行日	2022年3月8日(火)	天候	快晴
参加者	リーダー：小川(74歳) サブリーダー：廣瀬(71歳) 男性：山下(隆)(82歳)・植西(89歳 卒寿) 参加者計 4名 ・平均年齢 79.5歳		

ルート概略図



コースタイム

地名		時：分	地名		時：分
京田辺	発	06：00	さわらび登山口	着	13：25
	着			発	
グリーンパーク P	着	08：10	スキー場 P	着	13：36
	発	08：31		発	13：45
登山口	着	8：44	グリーンパーク P	着	13：55
	発	9：16		発	14：05
展望台・670m	着	10：27			
	発	10：35			
頂上・昼食	着	11：29	京田辺	着	16：10
	発	12：24			

今年満89歳のU氏から5日前にテント泊のお誘いがあったが、小生の個人的な理由で宿泊山行は難しいと断り今回の日帰り山行となった。メンバーは前回と同じだがW氏は3回目のワクチン接種日と重なり不参加となった。

今冬は天候の関係で滋賀県北部の山には登れていなかったが気象庁の天気予報で快晴となっていたので蛇谷ヶ峰に決定した。コース的にはスキー場からのピストンが第一希望だが3/6のヤマレコのレポートでは吹雪で地獄のような登頂とあり、一般的なグリーンパークからのピストンとしたが・・・。

雪に埋もれた釜の谷分岐道標



のこと。

いざ出発

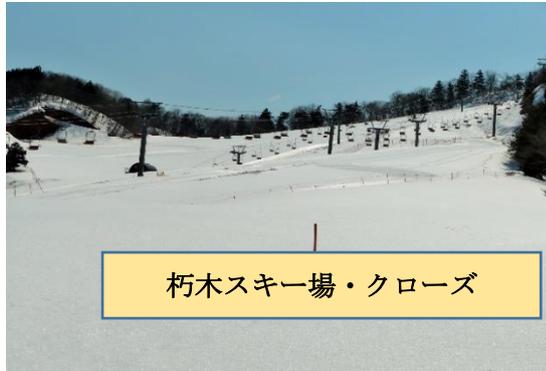


天空温泉横の駐車場に車を留め、バンガローの横を通り、登山口に向う。バンガローまでは除雪されていたが、その先は積雪量が多く、直ぐにアイゼンやワカンを装着し、急登を苦労しながらやっと552mの釜の谷分岐の道標に辿り着くが頭だけしか見えない。

融雪を心配していたが標高670mの展望台まではしっかりと固まっていたが、800m辺りまで来ると雪質が変わり、気持ちの良いサラサラとした新雪となった。後で聞いた話だが6日の日曜日に雪が降ったと

山頂に着いたのが予定通りの3時間後の11時半。山頂の道標も同じく頭だけ見える状態である。南の方角には武奈ヶ岳・東の方は伊吹山や霊仙山・北の方には高島トレイルの峰々が雪を頂き聳えている。少し風がでてきたので南面を少し下ったところで昼食を取る。

頂上を目の前にしてスキー場コースから登ってきた若い女性と遭遇。積雪状況が気になっていたのどんな状況かと聞くとまあまあ状態とのことであり、色々話をしている内にスキー場からグリーンパークの駐車場まで女性の車で送って戴けるということになり当初のコース（ピストン）を変更しスキー場へ下山することになった。ラッキー！！



朽木スキー場・クローズ



蛇谷ヶ峰頂上での記念写真

下山に当たり全員ワカンを装着し、高島トレイルの雪景色を楽しみながら約1時間でスキー場の駐車場に到着。スキー場は昨日からクローズとのこと。

天気と仲間と女神に恵まれ楽しい一日を過ごさせて頂きました。朽木の女神に乾杯！！

ヒヤリハット： なし

蛇谷ヶ峰感想

ようやく登れた雪の蛇谷ヶ峰

山下 隆

9年前に冬の蛇谷ヶ峰山行をトライした時は麓では曇りだったが、朽木温泉から歩き始めると、吹雪がだんだんきつくなり、登山口に着く前の林道で引き返したことがあった。

2度目は昨年の3月初旬、残雪の冬景色を楽しもうと、例会を計画していたが、頂上にさえ雪は全くなく早春の福寿草を期待して藤原岳への変更となった。

3度目の今回は、天気予報を見ながら急遽決まる。仲間は1月10日の綿向山と同じの老人組。今回は平均年齢79.5才で当会のギネス記録に残る登山となる。

3日前には福寿草を求めてのポンポン山だったので、その余韻が残ったままでの山行となり我ながら感心する。

当日は予想通りの快晴となり、雪も程よく残っていて、高気圧に広く囲まれて風も無く最高のコンディションとなった。登山口の初めからアイゼン着用する。途中で標識は頭の部分だけ顔を出し、2、3日前に着けてくれたトレースも程よく残っていて道迷いの心配は少ない。

80代の二人を若手(?)二人が前後をはさんでくられて登る。持病のツリが出ると怖いので、ズボンの両ポケットにはホカロンを忍ばせた。CLのペース配分が良かったので、ツル事もなく、設定したタイムスケジュール(標準の2割増)通りの3時間で頂上に到着した。



頂上近くになりふと振り返ると琵琶湖や対岸の山々が一望できるようになり、気分は高揚する。最後の頑張りだ。頂上では期待通りの 360 度の展望が迎えてくれた。雪をかぶった伊吹山・白山・琵琶湖の竹生島・琵琶湖の東の山並・余呉方面・赤坂山方面・武奈ヶ岳・・・絶景に言葉がないくらいだった。

登る途中から、大きなドーンという音が頻繁に聞こえてくる、発破の音にしては間隔がみじかすぎるし不思議に思う。頂上で出会った女神からは自衛隊の訓練場からの音と聞き納得した。1週間前にロシアがウクライナに侵攻し、世界中が騒然となっている中だったし、



南方・武奈ヶ岳

まさか日本にも飛び火したのかとも思ったりした。戦前に東京で生まれ、戦中には防空壕で寝泊まりしたり、焼夷弾を見たり、戦後の少年期には広島市で過ごした者にとっては今のウクライナの状況には敏感にならざるを得ないし、状況は理解しがたい。権力者が長く居座るとろくでもないことが起こる。つい80年前の日本の権力者も似たようなことをやっていた。国同士でもそうだが、身近な趣味の会でもこのようなことによく出くわす。当会は民主的な運営で救われる。戦争になると、個人の人生も家族も文化も歴史上の建造物も無くなってしまい、何もいいことはないのと思う。裏には得する黒幕がいるに違いない。平和の下で山登りし、素晴らしい景色を眺めつつも、鉄砲の音が頻繁に聞こえたので、色々考えてしまう。

北方・高島トレイルの峰々



頂上で出会った女神のおかげで下りはスキー



女神との2ショット
に微笑む長老



2人の長老の揃い踏み

場へ降りるコースを案内していただく。彼女のアドバイスで久しぶりにワカンをはいて快調に下り、予定より1時間も早く下山できた。登りに使ったルートより急斜面は少なく安全だった。

ワカンの用意や行き帰りの運転をしてくれた小川さんや仲間のおかげで無事に下山出来、ありがとうございました。

突然雪山への誘いが入る。行先は蛇谷ヶ峰だという。初めての山だ。徒然の身の強さを生かしすぐ参加する旨回答する。

グリーンパークから頂上往復の予定。福井との県境に近いだけに道中の道路わきに積雪が見られた。8時30分に登山口をスタート。

平日のため蛇谷ヶ峰を独占の登山開始。登山中発破か？大砲？かと思える大音が定期的に鳴り静謐な山の空気を震わしていた。傾斜が強くいってん溶けた雪が凍てその上に新雪が積もった状態が続く。6本爪のアイゼンでは効きが悪く歩きにくそうだ。休憩の回数が増える。

3時間で頂上に到達。360度雪山のパノラマ。青空と雪のコントラストが実に気持ち良かった。南側目前に武奈岳が堂々としていた。東方向に伊吹山、少し北に白山が見え雪を被った山並みは実にすがすがしい。

頂上を少し下がった所で食事をしたが、見上げると頂上の縁にかなり大きい雪庇がはみ出していた。きれいだが縁は要注意。眼下に今津自衛隊駐屯地が広がっていた。おそらく途中の大音は大砲の訓練と思われる。

天気は良かったが、やはり雪山だ。微風だが冷たく早々に下山することとなった。



頂上の東側に発達した雪庇

下山時の風景-1



頂上付近で出会った1人登山の女性が朽木スキー場からグリーンパークまで車に乗せてくれるという。言葉に甘えてスキー場側に下山。こちらは距離こそ短いが雪は深い。

下山時の風景-2



下山時の風景-3

生まれて初めてワカンを装着したが歩きやすい。ところどころ足が雪に埋まることがあったが実に楽しかった。

親切な女性のおかげで2時に出発点に到着。雪山は好きではなかったが、今年2回とも天気に恵まれ、雪山の魅力を変えて感じさせられた。

追伸＞ 後日調べたところ、ドーンという大きな音は陸上自衛隊今津駐屯地の饗庭野演習場での迫撃砲や戦車砲の実射訓練であり、昨年6月には間違って場外に着弾したことがあったとのこと。過去にもこのような間違いが起こっており、住民からの苦情が寄せられているとのこと。雪崩注意報も出ていることも有り、クワバラ・クワバラ・・・